



写真提供：桐生建設株式会社+桐生森芳工場

須藤邸

国の登録有形文化財である須藤邸は白を基調とした壮麗な佇まいで、閑静な住宅街のなかで圧倒的な存在感を放っている。明治に創業し大正末期には桐生有数の織物工場となった金善織物会社の事務所兼居宅として建てられ、明治前期、後期、大正10年（1921）頃の三時期にわたって増改築が施された。昭和30年（1955）に須藤寿作氏が購入し長年にわたり禮子夫人との住まいとしたが、昨年3月、新たにミタカホールディングス㈱（高山淳史代表）が取得し、現在維持・活用の道を探っている。

建物は主屋と敷地背後の奥座敷、北側の土蔵から成る。象徴的な正面玄関は、巨大なエンタシス状の4本の柱が並ぶ大オーダーと柱の間には丸窓が配される斬新なデザイン。そのほかにもパラペットのくり型や擬洋風建築の南側部分など、随所に手の込んだ意匠が施され桐生の数ある近代化遺産のなかでも異彩を放つ。屋内も大正ロマンが溢れる和洋折衷の豪華な造りになっていて、中でも吹き抜けの玄関ホールとサロンは圧巻である。

金善織物工場は大正時代の最盛期を迎え、桐生で業界2番手にまで上り詰める。栄華を誇るように、2代目・金居常八郎が当時建てた「金善ビル」は現在もまちの中心部でランドマークとして残っている。堤町の事務所（須藤邸）には大規模なノコギリ屋根工場が隣接していたが、昭和19年（1944）に戦時中の企業整備によって解散し、戦後復興することはなかった。

ミタカホールディングスが取得後の昨年12月には、クリスマスコンサートをサロンで開催し、イベントを通じて初めて一般に開放した。今後は高山代表も参画するまちづくり会社・テキスト桐生㈱（星野尚香代表）と共同で施設を運用する計画で、メンバーシップ制度の導入や一般公開、商業利用など、文化財の維持・活用をビジネスとして両立する方法を見極める。「須藤さんがつないでくれたバトンを、自分も後世につないでいきたい。まずは知ってもらうことから始めたい」と、高山代表は地域の共有財産の守り手として一歩を踏み出した。



参考：きりゅう百景、桐生市ホームページ

斬新なデザインで異彩を放つ洋館
新たな担い手が維持・活用に挑戦

【須藤邸】

●住所／桐生市堤町1-14-32

※須藤邸の利用や見学に関するお問合せはミタカホールディングス㈱（sudoutei@mitaka-kk.com）まで。